

# わが家の防災メモ

## わが家の避難所

--

## 家族の連絡先

氏名	電話番号（学校・勤務先）	所在地

## 非常時持出品

避難に備えて、非常時持出品などを常備し、両手が自由に使えるようにリュックサックなどにまとめておきましょう。

<input type="checkbox"/> 携帯用飲料水 	<input type="checkbox"/> 食品（カップめん、缶詰、ビスケットなど） 	<input type="checkbox"/> 貴重品（預金通帳、印鑑、現金など） 	<input type="checkbox"/> ヘルメット、帽子など 
<input type="checkbox"/> 懐中電灯 	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ 	<input type="checkbox"/> 衣類（防寒具）、下着 	<input type="checkbox"/> 救急用品 
<input type="checkbox"/> 軍手（厚手の手袋） 	<input type="checkbox"/> ライター、マッチ、ろうそく 	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ 	<input type="checkbox"/> 筆記用具 

## お問い合わせ先

<b>芦屋町 総務課 庶務係</b> <b>tel 223-0881</b>
-------------------------------------------

保存版

芦屋町

# 総合災害

# 対応マニュアル



福岡県 芦屋町

平成 23 年

芦屋町

災害の歴史

水害・津波対策

基礎知識編

水害・津波対策

避難・対策編

震災対策

火災対策

応急救護

情報伝達・取得

自主防災組織

防災マップ

芦屋小学校区

防災マップ

芦屋東小学校区

防災マップ

山鹿小学校区

津波

ハザードマップ

津波時

避難適用高台



# 芦屋町災害の歴史

芦屋町は平成 23 年に町制 120 周年を迎えます。その長い歴史の間に様々な災害がありました。現代は、防災に対する技術の向上により、昔と比較し災害が起こりにくくなっています。しかし、過去の災害を振り返り、災害に対してどのように取り組むべきなのか、今一度考えてみましょう。

## 芦屋町で発生した災害の歴史

1905年（明治38年）  
芦屋町誕生

1952年（昭和27年）  
火災：全焼63戸、半焼2戸、罹災者330名

1954年（昭和29年）  
火災：全焼12戸、罹災者73名

1968年（昭和43年）  
火災：全焼15戸、半焼2戸、罹災者54名

1976年（昭和51年）  
竜巻：負傷者5名、全壊1棟、半壊1棟

1999年（平成11年）  
集中豪雨による土砂災害

### 1929年（昭和4年） 芦屋大火



岡湊神社や禅寿寺などを併せて民家 70 戸を焼く大火事がありました。写真は船頭町の状況です。

### 1953年（昭和28年） 西日本水害



6月25日から29日の間に起こった豪雨により、遠賀川が決壊し、多くの民家が浸水・倒壊し、祇園橋は、上流からの流出物により流失しました。被害は、建物の流出29戸、全壊5戸、半壊4戸、床上浸水94戸で、芦屋町で起こった最も被害の大きい災害でした。写真は流された祇園橋（左）とえぐりとられた西川（右）の状況です。



### 2005年（平成17年） 福岡県西方沖地震



3月20日に福岡県西方沖地震が発生し、芦屋町では震度4を記録しました。芦屋町での被害は家屋半壊が1軒でした。写真は最も被害が大きかった玄界島の状況です。

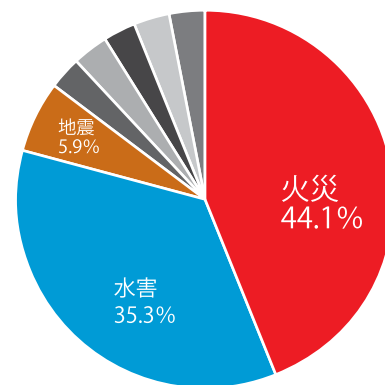
## 災害危険性

芦屋町はこれまで、遠賀川の洪水に起因する水害と火災が主な災害であり、遠賀川の整備の進捗とともに水害も近年発生していません。

地震についても 2005 年に発生した福岡県西方沖地震以外では、150 年過去にさかのぼって、南海地震に起因する小規模な被害があった程度です。

しかし、芦屋町周辺は台風の常襲区域であり、近年の異常気象や集中豪雨の発生を考えると、風水害の危険性は低いとは言えません。

芦屋町の災害統計



## 災害に対する心構え

普段、なにげなく暮らしている私たちの日常生活。しかし、実はそこにはたくさんの危険が潜んでいます。火災や大きな地震の発生、大自然の驚異。災害はいつやってきてあなたを襲うか分かりません。そしていざ災害が起きた時は、救助が来るのにすごく時間がかかるかもしれません。



①災害のことを知る

②助け合い

③事前の対策

が重要です。この3つのポイントを思い出しながら日常生活を振り返り、安全・安心な生活を実現していきましょう。

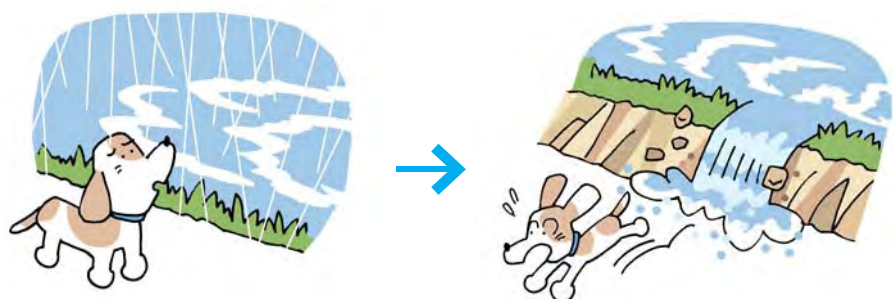


水害には、大きく「洪水」「高潮」の2種類があります。他にも地震による「津波」や集中豪雨による「内水氾濫」があります。それぞれの水害に対応するためには、その災害について知り、日常的な対策をすることが重要です。

### 洪水

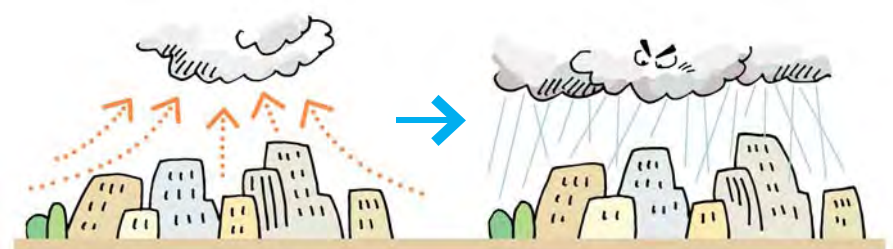
#### ■ 洪水の原因

洪水は、大雨によって河川の水の量が増え、水位が上がり堤防に圧力がかかると、堤防が崩れ、水が溢れる災害です。



#### ■ 集中豪雨の原因

地面付近の暖かい空気が上昇すると、上空の冷たい空気とぶつかり、大気の状態が不安定になります。この時の空気が湿ったものであれば、上空に行くに従って、空気に含まれる湿気・水分が凝結して雲になります。この雲が積乱雲となり、局地的な狭い範囲に激しい雨を降らします。



### 高潮

#### ■ 高潮の原因

高潮は、台風や発達した低気圧によって気圧が下がることが原因で発生します。気圧が下がると海面が吸い上げられ、それと同時に強風で海水が風下へ吹き寄せられ、波が発生します。



#### ■ 潮汐との関係

太陽や月の引力による潮汐は別の現象ですが、同時に発生すると、海面がさらに高くなり、危険性が高まります。台風の接近と満潮の時間帯が重なると非常に危険です。



#### ■ 高潮の予測

高潮は他の水害と違い、台風の予報に基づき、予測を行なうことができます。すなわち、警報と避難により、人的被害の発生を防ぐことのできる災害でもあります。



### 津波

#### ■ 津波の原因

津波は、海底火山の噴火・がけ崩れや地すべりによる大量土砂等の海面への突入などもありますが、その大部分は地震が原因で引き起こされます。



#### ■ 津波の速さ

津波は海岸付近でも秒速 10m程度の速さで襲ってきます。津波が見えてからではとても逃げ切れません。津波は海が深いほど速く、その速さはジェット機並みです。



#### ■ 津波は繰り返し襲ってくる

津波は、2回、3回と繰り返し襲ってきます。1回目で安心せずに津波警報・津波注意報が解除されるまで海岸に近づかないことが大切です。



津波の前は、引潮になるという言い伝えがありますが、引潮が起これなくても津波が襲ってくる場合があります。

### 内水氾濫

#### ■ 内水氾濫とは

まちに降った雨は、水路、下水道などを流れて河川に排水されます。しかし、大雨が降ると河川の水位が上がり、河川へ排水されずに小さな川や下水道が溢れて氾濫します。これを内水氾濫と呼びます。



#### ■ 内水氾濫の原因

樹林地や畑、水田などは、雨水を地表上へ一時貯留し、また地中へ浸透させる働きを持っています。しかし、道路・駐車場等の舗装などによって雨水が浸透しにくい土地の面積割合が大きくなると内水氾濫が起これやすくなります。

### 日常的対策

☐ 天気予報や気象条件に気をつける



☐ 小さな揺れや雨でも水害に気をつける



☐ お年寄りや体の不自由な人に気配りを



☐ 避難経路をハザードマップで確認する



☐ 非常時持出品の用意



☐ 役所や消防団の呼びかけに注意する





水害や津波の威力は非常に強いです。しかし、どのように行動したらよいのかをあらかじめ知ることで、落ち着いて避難をすることができます。もしもの時に備えて家庭はもちろん、地域ぐるみで日頃から対策をとるようにしましょう。

### 情報取得先

テレビやラジオから最新の情報を把握しましょう。

また、インターネットでは、気象や河川の情報を右のリストから得ることができます。

芦屋町ホームページ	<a href="http://www.town.ashiya.lg.jp/navigate/public/mu1/bin/">http://www.town.ashiya.lg.jp/navigate/public/mu1/bin/</a>
気象庁ホームページ	<a href="http://www.jma.go.jp/jp/yoho/">http://www.jma.go.jp/jp/yoho/</a>
国土交通省ホームページ	<a href="http://www.river.go.jp/">http://www.river.go.jp/</a>
遠賀川河川事務所ホームページ	<a href="http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/">http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/</a>
福岡県河川防災情報ホームページ	<a href="http://www.kasen.pref.fukuoka.lg.jp/bousai/">http://www.kasen.pref.fukuoka.lg.jp/bousai/</a>

### 浸水対策

#### □ ゴミ袋による簡易水のう

40 リットル程度の容量のごみ袋を二重にして中半分程度の水を入れ、出入口などに隙間なく並べて使用します。(買い物ポリ袋でも代用できます。)



### 原因の発生

(大雨・地震・台風等)

#### □ 安全な避難経路の確認

洪水ハザードマップや津波ハザードマップを確認して避難経路を確認しましょう。

#### □ 正確な情報収集

気象情報や河川の情報を収集しましょう。デマなどに惑わされないように正確な情報を掴みましょう。

### 警報

#### □ 避難の呼びかけに注意

防災行政無線や消防団から避難に関する情報があるかもしれません。

#### □ 警報や注意報に注意

警報や注意報が発表されたら災害に注意しましょう。

警報：重大な災害が起こるおそれのあるとき発表

注意報：災害が起こるおそれのあるとき発表

### 避難準備

#### □ 非常時持出品の確認

裏表紙にあるリストをチェックしましょう。

#### □ 電気・ガスなどの火元を消す

避難をしている時に火災が発生してしまうこともあります。避難をする前にしっかりと火の元の確認をしましょう。

#### □ 親戚や知人に避難する旨を伝える

避難をする前に、どこに避難をするのかを伝えておきましょう。

### 避難

#### □ ハザードマップを見ながら速やかに避難

ハザードマップを見て、経路を確認しながら避難しましょう。もしかすると、水に浸ってしまう箇所を通過してしまうかもしれません。

#### □ 浸水する前に徒歩で避難

車や自転車は水防活動の妨げになります。避難するときは歩いて避難しましょう。

#### □ 逃げ遅れたときは近くの丈夫な建物の3階以上に避難

もし、逃げ遅れたときは、無理に避難所へ移動せず、出来るだけ高い丈夫な建物に避難しましょう。

### 避難のポイント

#### ① 動きやすい格好で避難



避難をするときは出来る限り逃げやすい格好に着替えましょう。素足や脱げやすい靴は× ひもで縛れる運動靴が○

#### ② 2人以上で避難



避難をするときは単独での行動は危険です。必ず、隣近所に声をかけ、はぐれないようにロープで縛るなどしましょう。

#### ③ 避難は徒歩で



避難は、徒歩で行い、自動車での避難はやめましょう。浸水が始まっているときは、側溝などの溝に落ちる危険がありますので、足元に注意しましょう。

#### ④ 歩ける深さに注意



歩行可能な水深は、男性で70cm、女性で50cm、子どもは30cmが目安となります。水深が深い場合は、無理せず高所で救助を待ちましょう。

#### ⑤ お年寄りなどの避難に協力



お年寄りや子ども、体の不自由な人などは、早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子ども、体の不自由な人の避難に協力しましょう。

#### ⑥ 少しでも高いところへ



予想もできない高さまで水が来ることがあります。できるだけ高いところを通過して、十分な高さがあるところに避難しましょう。

#### ⑦ 海岸・河川へ近づかない



津波は繰り返し襲ってきます。洪水でも予想もしないことが起こるかもしれません。警報が解除されるまで、海岸や河川へ近づかないようにしましょう。



# 震災対策

地震は前触れもなく発生し、「揺れ」「液状化」「土砂災害」「津波」「火災」などが同時に起こり、大きな被害が生じる恐れがあります。日常からの対策はもちろん、地震が発生した時にどのように行動をすればよいのかをあらかじめ知っていることで、被害を最小限に抑えることにつながります。

## 日常的対策

### □ 家庭で防災会議

地震が起こった時、どのように行動をするのかを家庭内で話し合い、役割分担をしておきましょう。



### □ 避難ルート確認

地震ハザードマップを使って避難場所を調べ、避難ルートを確認しましょう。



### □ 非常時持出品の用意

裏表紙にある非常時持出品のリストを使って、家族構成を考えて必要なものを用意しましょう。



### □ 家の内外をチェック

家具の固定や配置方法の工夫を行い、家の内外の安全性を高めておきましょう。まだ耐震診断が済んでいない家は耐震診断を実施しましょう。



### 耐震改修促進計画

芦屋町では、耐震改修を促進しています。

まだ、耐震診断を実施していない方は、「耐震診断アドバイザー制度」を利用して地震に対する建物の強さを検討してもらいましょう。

【相談窓口】  
福岡県建築住宅センター企画情報部  
TEL：092-781-5169  
(地震ハザードマップに制度の詳細な情報があります)

## 避難の流れ

## 地震発生

(0分)

### □ 落ち着いて行動する

激しい揺れは1～2分続きます。慌てて外に飛び出さず、冷静に行動しましょう。

### □ 自分の身を守る

地震発生直後は、自分の身の安全確保が最優先です。家具が倒れてきたり、電球が落ちてくる恐れがあるので、テーブルの下に隠れる等の行動で身を守りましょう。

### □ 火を消す

火災は地震の被害を大きくします。ただし、危険を伴うので、揺れている間は無理はしないようにしましょう。

### □ 逃げ道を確保

揺れがおさまったらすぐにドアを開け、逃げ道を確保しましょう。



## 揺れがおさまったら

(1～3分)

### □ 家族の安全を確認

まずは家族の安全を確認しましょう。

### □ 火元を確認

火災が発生しても慌てずに初期消火をしましょう。消火の方法は9-10ページへ。

### □ 非常時持出品の準備

持出品や貴重品の準備をしましょう。非常時持出品のリストは裏表紙へ。

### □ 必ず靴を履く

地震の後はガラスの破片などが散乱していることがあります。足をケガしないように靴を履きましょう。



## 避難の準備

(5～10分)

### □ 正確な情報収集

最新の正確な情報を入手しましょう。自分からの情報発信も、確認したことをありのままに伝えましょう。

### □ 行き先メモを玄関に

自宅を離れる時は家族の安否、行き先が分かるように伝言メモを分かりやすいところへ置きましょう。

### □ 隣近所の安全を確認

隣近所の人の安全を確認しましょう。特に介護を要する人の安否を確認しましょう。

### □ 家屋倒壊の恐れがあれば、すぐに避難

崩れた建物に閉じ込められる恐れがあります。危険を感じたらすぐに避難しましょう。

### □ ブレーカーを落とす

地震後、停電から復旧した時に火事が起こる可能性があるため、避難をする前にブレーカーを落としましょう。



## 避難

(10分～数時間)

### □ 協力して消火・救出活動

消火活動、救出活動は、みんなで協力して行いましょう。特にお年寄りや体の不自由な人には率先して協力しましょう。ケガ人への対処方法は12ページへ。

### □ デマに惑わされない

町や消防団からの情報に注意して、デマに惑わされないようにしましょう。

### □ 家に閉じ込められたら

もし家に閉じ込められたら、大声、ナベやフライパンを叩いて音で居場所を知らせましょう。



## 避難生活

(3日以上)

### □ 生活必需品は備蓄でまかなう

芦屋町には、900食分の備蓄食料があります。その他の生活必需品は自分たちで準備しましょう。

### □ 余震に注意

大きな地震の後には、よく余震が発生します。余震に対する備えもしっかりしておきましょう。

### □ 集団生活のルールを守る

避難所は共同生活の場です。あらかじめ決められたルールを守り、助け合いの精神で、協力し合いましょう。





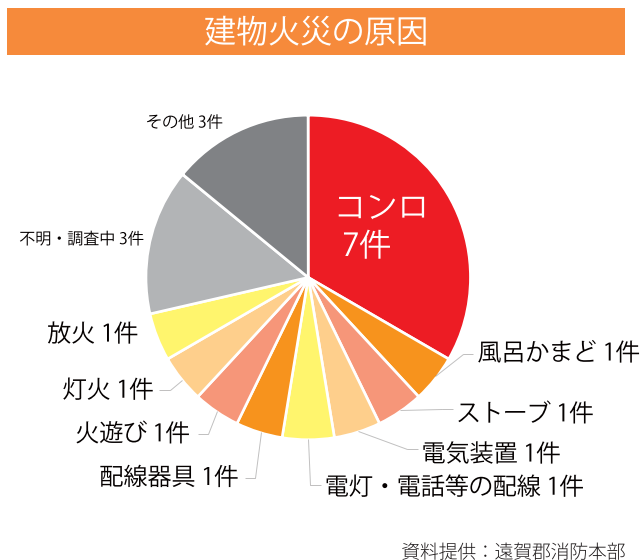
# 火災対策

火災では初期消火が非常に重要となります。日頃からどんな出火原因があり、どんな消火方法がもっとも適しているかを覚えておきましょう。また、消火活動では、個人で出来ることは限られていますが、地域の人々と消火訓練を行うなど、協力するようにしましょう。

## 火災の発生要因

平成 22 年中の遠賀郡内の建物火災 21 件における出火原因をみると、「コンロ」が 7 件となっており建物火災全体の 33.3% を占めています。

他にも「風呂かまど」や「ストーブ」、「電気装置」、「電灯・電話等の配線」、「配線器具」などから出火しており、日ごろから注意することで火災を未然に防ぐことができます。



## 日常的対策

### □ コンロを使うときは離れない

揚げ物を調理するときは、少しの間も目をはなさないこと。火から離れるときは必ず火を消しましょう。



### □ タバコに気をつける

タバコの火の消し忘れはもちろん、灰皿の吸い殻がたまっていて危険です。また、寝タバコは絶対にしないようにしましょう。



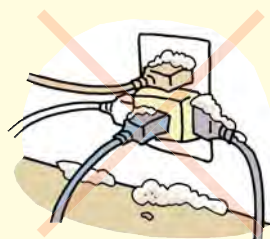
### □ 火災報知器の設置

平成 21 年から住宅用火災報知器の設置が義務付けられています。まだ、設置していない家は早く設置するようにしましょう。



### □ コンセントの周辺はすっきりと

コンセントの周辺にほこりやゴミがたまっていると、そこに火がつくことがあります。日ごろからよく掃除をして、タコ足配線はしないようにしましょう。



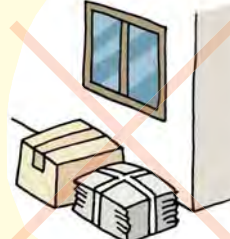
### □ 子どもにライターなどで遊ばせない

小さい子どもがいる家では、マッチやライターで遊ばないよう、手の届かないところにしまっておきましょう。



### □ 放火させない環境づくり

家の周りに新聞や雑誌、ダンボールなどの燃えやすい物を置かないようにしましょう。



## 火が出たら

- 火が出たことを周りへ知らせる  
遠慮せず周囲の人に助けを求め、周りに火事が起こったことを知らせましょう。
- 119 番に通報  
火災が発生しても慌てずに 119 番へ通報しましょう。通報の仕方は 13 ページへ。

## 初期消火

- 身近なものを使って初期消火  
燃えにくいものをかぶせて空気を遮断したり、火のまわりから燃えるものを取り去ってしまえば火は燃え上がりにくくなります。火が小さいうちに慌てずに対処しましょう。

## 避難

- 天井に火がうつったら、即避難！  
天井に火がうつったら、あっという間に火は燃え広がります。その時はすぐに避難しましょう。
- 避難するときはドアや窓を閉める  
避難をするときは、延焼防止のために、燃えている部屋のドアや窓を閉めましょう。
- 消防隊の指示に従う  
消防隊が到着したら、指示に従いましょう。また、周辺住民の避難が必要であれば、指示に従って避難誘導を行いましょう。

## 初期消火方法

火は一般的に「空気」「燃えるもの」「高い温度」の 3 つの条件がそろった時に燃えます。この 3 つの条件のどれかが無くなるようにすれば火を消すことができます。

### 濡らしたシーツ、タオルで包む

濡らしたシーツで手が隠れるようにし、火元を包み込むようにシーツをかぶせます。かぶせたシーツはすぐには取らないようにしましょう。



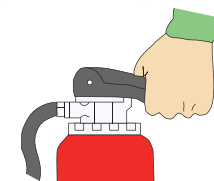
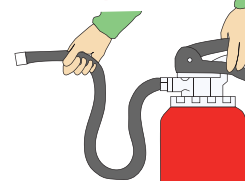
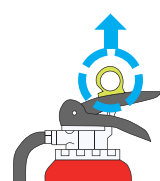
### 座布団で火を叩く

座布団などで火を叩くことによって、火が消えることがあります。しかし、火傷をしないように注意しましょう。



## 消火器の使用方法

- ① 安全ピンを抜く
- ② ホースを外して火元に向ける
- ③ レバーを強く握る
- ④ 火の根元を狙って噴射



消火ポイント

逃げ口を背に、火の根元に噴射する  
自らの安全を考え、逃げ道を背にして消火しましょう。また、炎や煙に惑わされず、火の根元を見極め噴射しましょう。

念のために水をかける

消火器では火が消えても、再び燃え出すこともあるので念のために水をかけ、完全に消火しましょう。



# 応急救護

災害が発生した時、ケガや病気で倒れている人がいた場合、どのように対応すればいいでしょう。救急車が到着するまで、救急避難所に着くまでの応急手当をしなければ生命に危険を及ぼす場合もあります。簡単な救護方法を知り、命を守り合しましょう。

## 避難中の人命救助

### 人がもし倒れていたら

#### ① 意識があるか調べる

意識を確認する方法①呼びかけて返事をするか、②話はできるか、③手足を動かしているか、④痛みに対して反応はあるかによって確認をします。

このとき、外傷がなくても体内を損傷している可能性もあるので、体を揺らさないことを心がけましょう。



意識がない

意識がある

#### ② 気道を確保

額に手を置き、もう一方であごを持ち上げて頭を後ろにそらせ、気道を確保しましょう。

#### ③ 呼吸の有無を確認

呼吸があれば、吐物などで窒息の危険を防ぐため横向きに寝かせましょう。

#### ④ 人工呼吸・心臓マッサージ

呼吸がなく、心肺停止状態にあるときは、人工呼吸・心臓マッサージを行いましょう。

#### ② 患者と話す

倒れた原因を聞き、不安を和らげるため、「もうすぐお医者さんが来ますよ」など声をかけましょう。

#### ③ 外傷があれば応急手当を

感染症の恐れもあるので、コンビニの袋などを手に覆うなど工夫をしましょう。

#### ④ 安静な状態へ

衣服のボタンやベルトを緩めたり、体を楽な状態にしてあげましょう。

### AEDの使用方法

AEDは、Automated External Defibrillatorの頭文字をとったもので、日本語訳は自動体外式除細動器といいます。小型の器械で、体外（裸の胸の上）に貼った電極のついたパッドから自動的に心臓の状態を判断します。もし心室細動という不整脈（心臓が細かくブルブルふるえていて、血液を全身に送ることができない状態）を起こしていれば、強い電流を一瞬流して心臓にショックを与えること（電気ショック）で、心臓の状態を正常に戻す機能を持っています。

#### ① 電源を入れる



#### ② 電極パッドを胸に貼る

体が汗や水で濡れていたならタオルで拭きます。



#### ③ 電気ショックの必要性をAEDが判断

解析中は傷病者に触れないようにしましょう。



#### ④ ショックボタンを押す

誰も傷病者に触れていないことを確認してボタンを押しましょう。



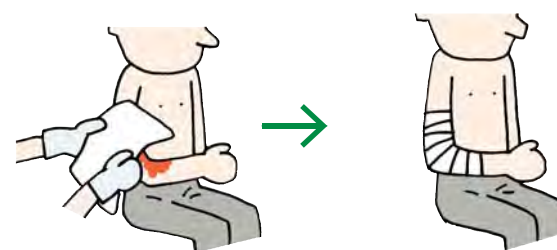
#### ⑤ 以後はAEDの音声メッセージに従う

心肺蘇生（人工呼吸・胸骨圧迫）とAEDの手順は、救急隊に引継ぐか、何らかの応答や目的のある仕草（例えば、嫌がるなどの体動）が出現したり、普段どおりの息が出現するまで続けます。

## 応急救護方法

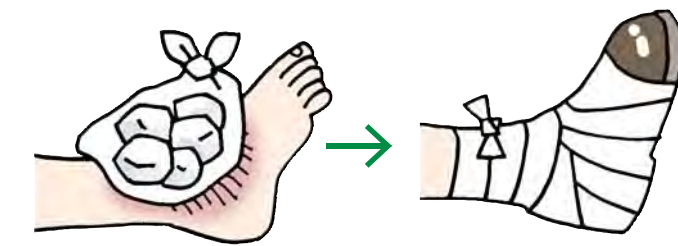
### 出血

- ① 出血しているところを完全に覆える大きさの清潔なガーゼや布でやや強く押さえ、止血する
- ② 患部を清潔に保ち、包帯などを巻く
- ③ じかに血液にふれないようにビニール・ゴム手袋・スーパーの袋を利用する



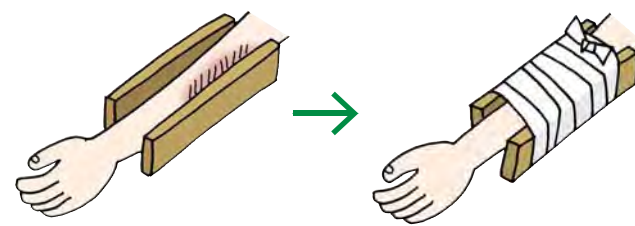
### ねんざ

- ① 患部を冷やす
- ② くつは添え木のかわりになるので、脱がないでその上から三角きんや布などで固定する



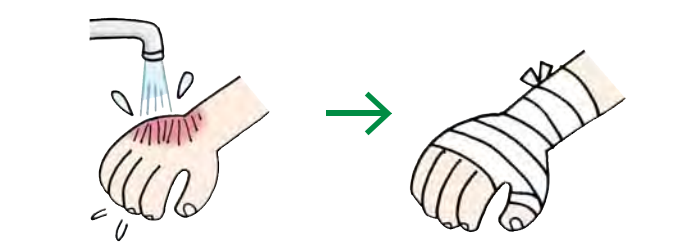
### 骨折

- ① 出血している場合は、その手当てをする
- ② 添え木を当て、痛くない位置で固定する。添え木は骨折部分の関節より長くする
- ③ 骨が突き出しているときは、その上に清潔なガーゼか布を当て、シーツなどでくるむ



### 火傷

- ① 流水で患部を冷やすのが一番良いが、水が出ないときは、水で濡らした清潔なガーゼやタオルを頻繁に変えて冷やす
- ② 水ぶくれは破らないようにする
- ③ 消毒ガーゼかきれいな布を当て、包帯を巻く



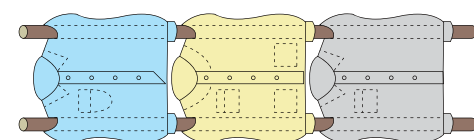
### 応急担架

#### ■ 上着を活用する場合

図のように2本の棒に上着を通す。

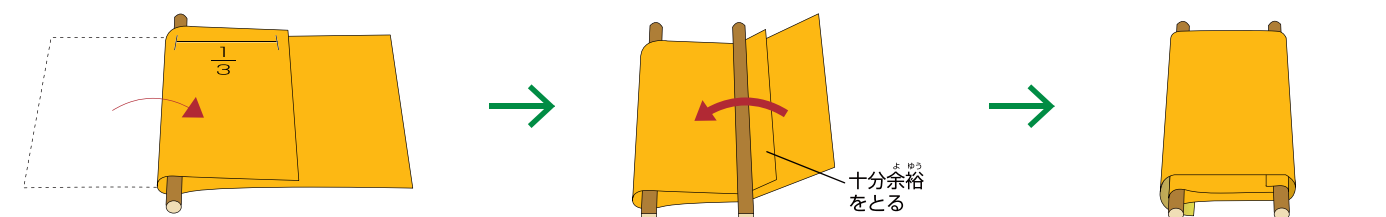


出典：わたしの防災サバイバル手帳（総務省消防庁）



#### ■ 毛布を活用する場合

毛布の1/3のところを棒を置いて、毛布を折り返して作る。



# 情報伝達・取得

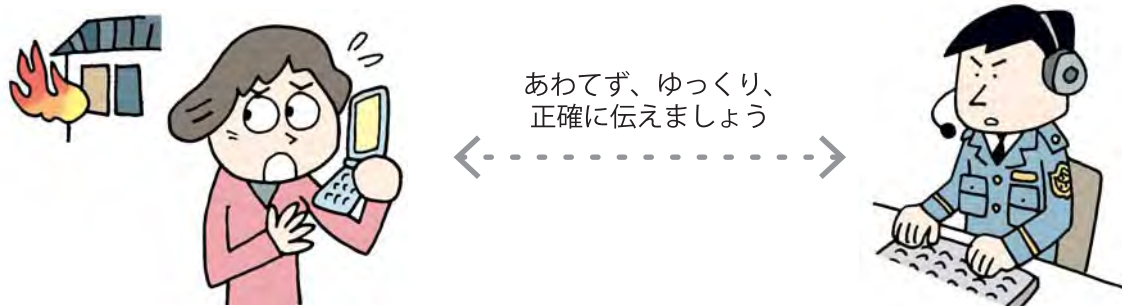
災害発生前、災害発生時には、正確な情報を得ることが非常に重要です。情報を誤るとパニックになることもあります。情報伝達を確実にを行うには、①伝達する情報は簡潔に明瞭にすること、②間違いを避けるためにメモをとること、③確実に伝達されるように適切な情報伝達手段を選択することが重要です。

## 119 番の正しいかけ方

実際に火災に見舞われた時や家族がケガや急病の時は、気が動転し、落ち着いて通報ができなくなることがあります。しかしながら、あわてて一方的に話すと、正確に伝わらない上、時間もかかります。自分だけで一気に話そうとせず、落ち着いて聞かれたことに正確に答えていくのが良い方法です。ただし、通報している場所にまで煙や火が拡大するなど危険が迫っている場合は、すぐ避難しましょう。

### 119 番通報の流れ

消防署員：119 番、消防署です。火事ですか？救急ですか？	消防署員：今お使いの電話番号を教えてください。
通報者：火事です。	通報者：〇〇〇〇-〇〇〇〇です。(公衆電話の場合電話の上部に明記してあります)
消防署員：あなたのお名前と住所を教えてください。	消防署員：わかりました。何か燃えていますか？
通報者：名前は〇〇〇〇です。住所は〇〇町〇丁目〇番地〇号です。	通報者：〇〇の隣の私の家が燃えています。
消防署員：近くに何か目標はありますか？	消防署員：わかりました。直ちにそちらへ向かいます。
通報者：〇〇の近くです。	あなたは大丈夫ですか？早く外に出て下さい。
	通報者：はい。わかりました。



## 災害伝言ダイヤル

大きな災害が起こった時、電話利用が爆発的に増加し、電話がつながりにくい状況が数日間続くことがあります。このような時、身内や知人の安否を確認する方法として、「災害伝言ダイヤル(171)」があります。災害伝言ダイヤルは、大規模な災害が発生した際に被災地域内と声の伝言板の役割を果たすシステムです。被災地内とその他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生をすることができます。

「171」をダイヤルし、ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生をしてください **1 7 1**

録音する場合 **1** を押す

再生する場合 **2** を押す

被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤル **市 外 局 番 + 電 話 番 号**

録音

再生

## 情報取得先

### ■ 天候についての情報

気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/jp/yoho/>

### ■ 河川に関する「雨量」「水位」の情報

芦屋町ホームページ <http://www.town.ashiya.lg.jp/navigate/public/mu1/bin/>

遠賀川河川事務所ホームページ <http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/>

国土交通省ホームページ <http://www.river.go.jp/>

携帯電話版 <http://i.river.go.jp/>

福岡県河川防災情報ホームページ <http://www.kasen.pref.fukuoka.lg.jp/bousai/>

携帯電話版 <http://www.mobile-doboku.pref.fukuoka.lg.jp/>



携帯電話版を見るときはこちらからもアクセスできます→

### ■ 火災についての情報

火災情報取得先 **0180-999-998**

火災が発生したときに、このダイヤルに電話すると、「どこで」火災が発生したのかがアナウンスされます。

### ■ 緊急時の連絡先

芦屋町役場	223-0881
遠賀郡消防本部	293-1231
北九州市水道局(西部工事事務所)	644-7820
芦屋中央病院	222-2931

折尾警察署	691-0110
N T T 西日本	113
九州電力八幡営業所	0120-986-102
西部ガス	592-0919

### ■ 防災メール・まもるくん

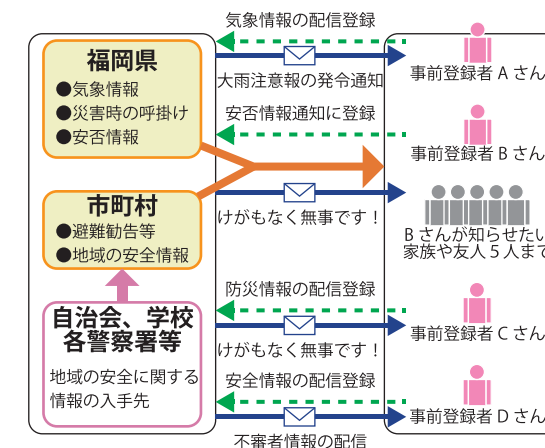
防災メール・まもるくんは、福岡県が災害に関する情報をお手元の携帯電話にメールで届けてくれるサービスです。登録をすると、①地震・津波・台風などに関する防災気象情報配信、②災害時の安否情報通知、③地域の安全に関する情報配信の3つの機能を使うことができます。

登録はこちらから ↓

<http://www.bousaimobile.pref.fukuoka.lg.jp/>



携帯電話から見る時はこちらからもアクセスできます→



## 防災行政無線

防災行政無線とは、市町村が整備する、防災関係機関への連絡や、住民へ防災情報を伝達する無線通信システムです。

芦屋町では、防災行政無線の拡声子局が町内の全域にわたって 33 箇所設置されており、災害が発生した際は、この拡声子局から全住民へ情報が発信されます。





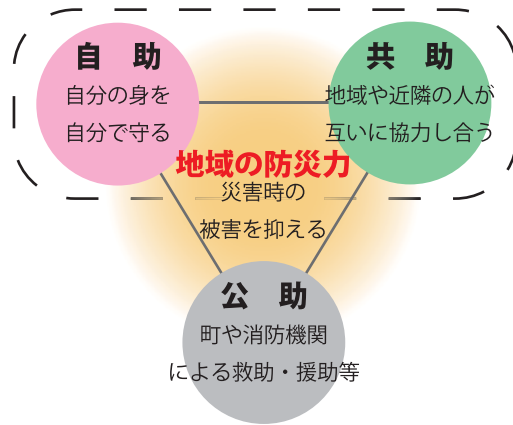
# 自主防災組織

災害から自分や家族の命を守るためには、個人や家族の力だけでは限界があり、危険や困難を伴う場合があります。このような時、毎日顔を合わせている隣近所の人達が集まって、互いに協力しながら、防災活動に組織的に取り組むことが必要です。

## 自主防災組織の必要性

昔は「向こう三軒両隣」という隣近所によって親密な関係が構成されていました。しかし現在は「隣は何をする人ぞ」といった言葉に象徴されるように、地域社会とのつながり、近隣住民との結びつきが希薄になりつつあります。

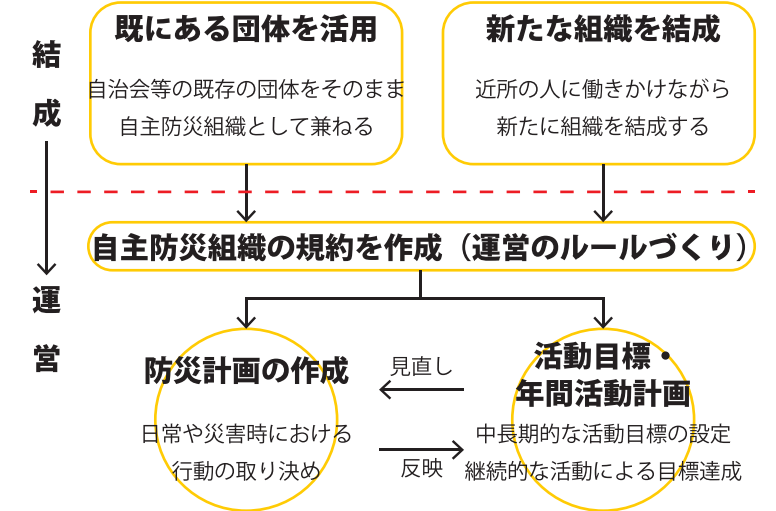
ひとたび災害が発生したときに、町や消防機関による救助・援助等（公助）だけでは限界があり、自分の身を自分の努力によって守る（自助）とともに、普段から顔を合わせている地域や近隣の人々が集まって、互いに協力し合いながら、防災活動に組織的に取り組むこと（共助）が重要です。そして「自助」「共助」「公助」がうまく機能することによって、地域の防災力が向上します。



## 自主防災組織の結成・運営

自主防災組織を結成するために、まずは「地域でともに安全・安心な暮らしを守る意識」の啓発をする必要があります。また、町や消防機関等と連携し、活動への理解や参加のきっかけづくりをしていくことが重要です。

自主防災組織を運営するには、まず組織の目的や内容を防災計画の策定などについて明確にした規約（ルール）をつくることが重要です。



## 自主防災組織の結成から活動までの流れ

### ① きっかけ

きっかけは、防災に対する関心を持つことです。まずは、自分が住んでいる場所の災害の危険性を知ることからはじめましょう。



### ② 自主防災組織結成・運営

危険性を知った後は、近所や知り合いの人々と共有し、話し合みましょう。地域として災害に対応するための組織を作りましょう。



### ③ 組織のルール・計画づくり

組織を作ったら、まずは、災害に対して何ができるのかを話し合い、組織のルールや活動の計画を作りましょう。



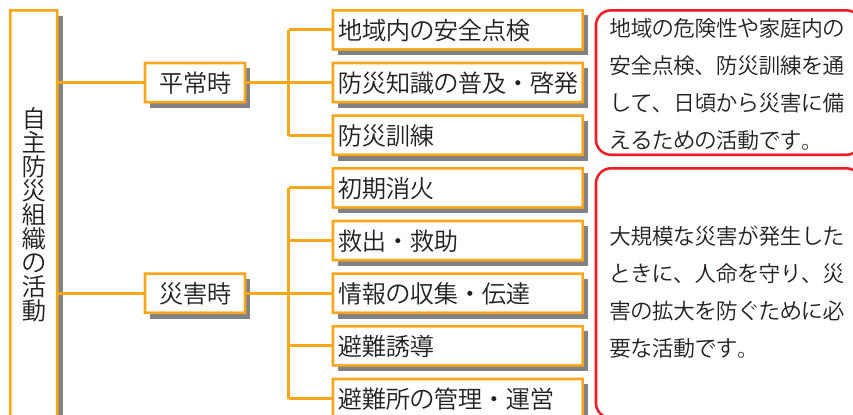
### ④ 防災活動

ルール・計画にもとづき、安全・安心な暮らしができるように協力して、防災活動を行っていきましょう。



## 自主防災組織の活動

自主防災組織は、災害が発生した時に、地域住民が的確に行動し、被害を最小限に止めるため、日頃から地域内の安全点検や防災知識の普及・啓発、防災訓練の実施など、災害に対する備えを行います。また、実際に災害が発生した時には、初期消火活動や被災者の救出・救助、情報の収集、避難所の運営といった活動を行うなど、非常に重要な役割を担っています。



## 防災活動の例



出典：財団法人消防科学総合センターHP

### 芦屋町では？

芦屋町では、平成 22 年 8 月 29 日に大雨による被害を想定した「町内一斉防災訓練」が各小学校区で行われ、関係機関や自治区などから 411 人が参加しました。

